

東日本大震災

アエラ臨時増刊 No.15
2011.4.10号
定価500円

100人の証言

3・11 ひとびとは何を見たのか

AERA

緊急増刊

私たちは どう生きていけば いいのか

27人の提言

東 浩紀、内田 樹、枝廣淳子、勝間和代
金子 勝、萱野稔人、玄田有史、河野太郎
近藤 誠、佐々木俊尚、佐藤 優、竹中平蔵
富永 愛、中田英寿、平野啓一郎、堀江貴文
益川敏英、馬淵澄夫、三國陽夫、村山 斉
山折哲雄、養老孟司

香山リカ 絶望の中で生まれる希望

高村 薫 悲しみと生きる

藤原新也 被災地で見た破壊と孤独

対論・それでも原発は必要か



長期的に自然エネルギーへ 短期的効率よりレジリアンス

日本では、電力の3分の1を原子力に頼っています。地震国で原発をもつ危険性や核廃棄物処理の問題から、原発頼みには無理があったにもかかわらず。世界の潮流は、温暖化対策やピークオイルを背景に、風力や太陽光などの自然エネルギーに移行しつつあるのに、日本は既得権益の抵抗で実現できなかつた。平時に方針を変えるのは難しいけれど、この震災を变化のきっかけにしなければと思います。

原発での発電量を自然エネルギーでまかなうのは無理だというのはすり込みです。デンマークやドイツなどでは、地域で風力発電を運営する取り組みや太陽光発電を導入するための優遇施策もある。太陽光なら停電でも影響を受けないし、化石燃料不足にも強い。自然エネルギーのポジティブな情報を出すことで変化できる。今すぐに原発全廃は無理としても、長期的なスパンで見た取り組みが必要です。

放射能汚染の恐怖心が高まっていますが、市民も科学リテラシーとリスクリテラシーを持つ重要性を実感しました。私は震災後すぐ、緊急和訳チームを立ち上げ、海外での報道を翻訳してウェブやメルマガで流し始めました。独自に放射線濃度を測って公開している人もいます。多角的な情報を集めて判断する力が必要です。政府はもっと市民を信頼して情報開示してほしい。震災が起きるまで、都会に住む人にとってエネルギーは遠いもので、あたかも無限に湧いて出てくるもののように見えていた。でも、今回の福島のように原発のある地域の大きな犠牲のもとに、電気が来ていることがわかった。喉元過ぎれば……ではダメで、計画停

電が終わっても、いらない電力は使わない生活を続けていくべきです。一番大事なことは、「レジリアンス」「弾力性」のある社会にすること。短期的な効率を求めて、遊びやゆとりがない社会になっていた。電力を極限まで使い、最低限の人員、ギリギリの在庫で最大の成果を出すことだけを重視してきたが、非常時には機能しない。東北の被災者を見ると、地域の人のつながりが災害を乗り越える力になっている。東京で、効率のために排除してきた「人と人のつながり」も、レジリアンスの大事な要素だと思います。

えだひろ・じゅんこ／1962年生まれ。イイズ代表。幸せ経済社会研究所所長。地球環境の現状や問題を環境メールニュースで提供

出典:AERA (2011.4.10号) 2011.4.2発売

「東日本大震災 100人の証言

私たちはどう生きていけばいいのか」

※記事や写真の無断転載・複製はご遠慮ください※